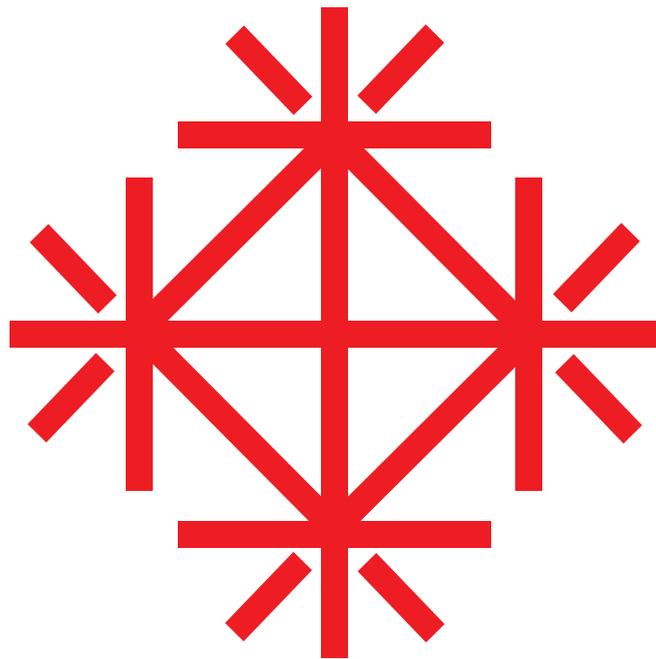


JASDAQ

証券コード: 2700



KITOKU SHINRYO

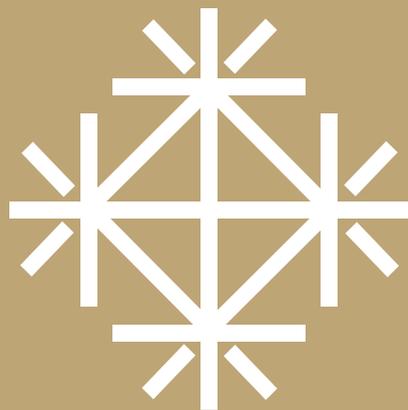
第55期

中間事業報告書

平成14年10月1日～平成15年3月31日

木徳神糧株式会社

URL <http://www.kitoku-shinryo.co.jp/>



私たちがめざす企業像

【企業価値】

～木徳神糧は、次のことに価値をおきます。～
常にお客さまのニーズに応えます。

お客さま、お取引先、株主、従業員、地域社会など、あらゆるステークホルダーとの信頼関係を大切にします。
社業の発展を通じて社会に貢献します。

【企業理念】

誠意と感謝の気持ちを持つ企業であり続けます。
より高いクオリティを追求する企業であり続けます。

新しい価値を創造する企業であり続けます。

～市場や顧客のニーズの変化に対応するだけでなく、変化を自ら創造し、市場や顧客に対して新しい商品やサービスを提供していきます。～

私たちは、こうした理念のもと、
お客さまに価値ある商品を、タイムリーにお届けしていくとともに、
『コメをコアとした食と暮らしの提案』を積極的に行っていきます。

マークにこめられた木徳神糧のスピリット

人が生きていくエネルギー源となる「米」。その「米」が人と人、人と社会を結び、ネットワークを形成していく…。このマークには、コメの供給を社会的使命とする木徳神糧が、お客さま、お取引先、株主、従業員、地域社会などのあらゆるステークホルダーとの信頼関係を築き上げ、限らない発展を遂げていくという、強い決意がこめられています。

株主の皆さまへ

皆さまには、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

第55期中間事業報告書をお届けするにあたりまして、日頃のご支援に心よりお礼申し上げます。また、このたびは当社および子会社であります木徳滋賀株式会社において、米穀の品質表示に関するJAS法表示違反により、消費者の皆さま、株主さまをはじめとする多くの関係者の方々に多大なご迷惑とご心配をおかけいたしましたことを深くお詫び申し上げます。現在、一日も早く皆さまの信用と信頼を回復するために、関係会社を含めた管理体制の強化を進めるとともに、グループをあげて法令順守（コンプライアンス）の徹底に取り組んでおります。

当中間期の日本経済は、期初においては景気が回復基調と思われたものの、その後は世界的に先行き不安感が高まり、企業の業績も低迷するなど、厳しい状況で推移しました。食品業界におきましても個人消費の低迷やデフレ進行など、依然として厳しい環境におかれましては。

このような事業環境のなかで当社グループは、お客さまのニーズに応えた商品・サービスの提供を進めてまいりました。その結果、当中間連結会計期間の売上高は51,394百万円（前年同期比5.5%増）となりましたが、損益面ではデフレの進行による価格の下落に加え、古米の販売差損をはじめ、食品全般にわたって信頼感が失われたまま、厳しい環境が続いたことが収益を圧迫し、営業損益は159百万円の損失（前年同期は475百万円の利益）、経常損益は285百万円の損失（前年同期は488百万円の利益）となりました。

今後は、お客さまの基本的なニーズである食の安全・安心に基づいた商品と、サービスや情報をタイムリーにお届けするとともに、経営に関わるすべての質の向上を図りながら、企業価値を高めしていく所存でございます。これを確実に実現するために、行動のよりどころとなる企業理念を、「誠意と感謝」、「クオリティの追求」、「価値創造」と決めました。これからもう一層お客さまのニーズをとらえて迅速に対応し、社会の一員として皆さまの目線に立った行動を実践してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長

木村良

グループ経営の強化を重要課題ととらえ、 企業統括(コーポレートガバナンス)の構築に努めてまいります。

私たち企業の存在する意義は社会とともに発展し、お客さまに喜ばれる新しいサービスや商品の開発に果敢にチャレンジし、豊かなライフスタイルを提供することにあると考えています。

その存在意義を再度認識し、消費者の皆さまをはじめ、株主の皆さま、お取引先さま、生産者の皆さま、業界関係者の皆さまの「信用」、「信頼」を一日でも早く回復できる企業グループとなるよう、グループをあげて改善計画の実行に取り組んでおります。一歩ずつではありますが、着実にその歩みを強めてまいります。

改善計画の実行状況

ガバナンス体制について

平成15年4月1日付で本社管理部門内に関係会社を統括する責任者を設置し、グループ経営管理体制を整備。さらに会計監査以外に業務監査強化のために、内部監査室の人員を平成15年4月1日付で1名増員し、監査役会との連携に努めています。またグループ全体の経営管理体制強化の早期化を図るため、米穀関係会社の経営トップに本社取締役を就任させ、原則2期4年をもって交代させていきます。

生産管理システムについて

全工場に製造から販売までを一貫した電算帳票で管理するシステムを導入し、トレースが完全にできる工場とし、生産管理の合理化を図りました。

品質表示について

品質表示管理委員会を設置してお客さまに安心して商品を継続的に購入していただくための品質管理方針を策定し、現在その方針の順法・監査の徹底を図っております。

品質表示管理委員会の構成

委員長	取締役社長	木村 良
リーダー	取締役管理本部長	水野 正夫
サブリーダー	取締役米穀事業本部副本部長	山本 幸雄
メンバー	マネジャー他	13名

精米製品の品質表示管理方針

- ①原料、製品のチェックを厳格に行うためにつぎのことを行います。
 - ・グループ各社で使用する原料玄米は、地域性のあるものを除いて本社業務部が仕入れを行います。
 - ・本社業務部と内部監査室が、各工場の原料入庫データと製品製造データの整合性を確認します。
 - ・内部監査室が3ヶ月に1回以上、事前連絡なしに巡回し、伝票確認等の監査をします。
- ②精米製品の品質管理の徹底、充実を図るためにつぎのことを行います。
 - ・銘柄ごとのDNA鑑定やカドミウム含有量などの検査を定期的実施します。
 - ・本社品質管理室が各工場の製品を対象として抜き打ち検査を行い、表示と品質の整合性を確認します。
- ③原料玄米と精米製品のサンプルを3ヶ月間保管し、過去に遡って品質の追跡調査ができるようにします。

コンプライアンス委員会の設置

本年1月15日に「コンプライアンス委員会」(委員長 木村 良)を発足させ、コンプライアンス活動を開始しましたが、平成15年6月1日付けで木徳神糧および木徳神糧グループ会社(以下木徳神糧グループという)のコンプライアンス行動基準およびコンプライアンスマニュアルを記載した「木徳神糧グループ コンプライアンス活動ハンドブック(以下ハンドブックという)」を作成し、木徳神糧グループの全役職員に配布しました。今後、木徳神糧グループの全役職員は、ハンドブックに明示した「木徳神糧グループのコンプライアンス行動基準およびコンプライアンスマニュアル」にそった行動をし、社会の皆さまから信頼される企業になるよう、努めてまいります。

コンプライアンス活動の組織

- ・委員会(コンプライアンス活動の重要事項の審議、立案および推進)
木徳神糧取締役社長が委員長、委員(現在5名)は取締役から選任。
- ・推進会議(コンプライアンス順守項目の審議、コンプライアンス情報の発信)
コンプライアンス担当取締役がリーダー、メンバー(現在21名)は各組織の管理職。
- ・職場会議(職場におけるコンプライアンス活動を実践)
リーダーは、推進会議に属するメンバーで、全社員が対象。

木徳神糧グループのコンプライアンス行動基準

- ①社会的責任と公共的使命を確認し、健全かつフェアで透明な業務活動を行います。
- ②職場環境の整備と個々人の個性・人権・プライバシーの尊重に努めます。
- ③法令記載の文言の順守のみならず、その制定の趣旨、目的、精神の理解と順守にも努めます。
- ④反社会的要求には断固とした姿勢で臨みます。
- ⑤再生紙の利用、廃棄物の分別処理等、地球環境保護のための環境保全活動を着実に進めていきます。
- ⑥進出国、進出地域の文化・慣習を尊重するとともに、地域に根差した企業活動を通じて、国際社会との調和を図り、持続的発展に努めます。
- ⑦人種、皮膚の色、性別、宗教、国籍にかかわらず、公正に接し、外国人従業員に対しても、雇用機会均等の維持に努めます。
- ⑧地域社会との連帯と協調を図り、良好な関係を維持することにより、地域社会の一員としての役割を果たすよう努めます。
- ⑨利益と倫理が相反する場合には、迷わず「倫理」を選択します。

経営体質の強化と高収益構造への 体質転換をめざします。

グループ全体の経営管理体制を強化するとともに、「伝統的な米穀卸からメーカーへの転換」をビジョンとして掲げ、高収益構造への体質転換をめざしています。日本の食生活を支える企業として、経営資源の効率的活用や既存事業の選択と集中で、経営基盤の再構築を行います。さらに、お客さまのニーズを起点とした商品企画開発を機軸に高付加価値を生み出す事業へのシフトも着実に進めてまいります。

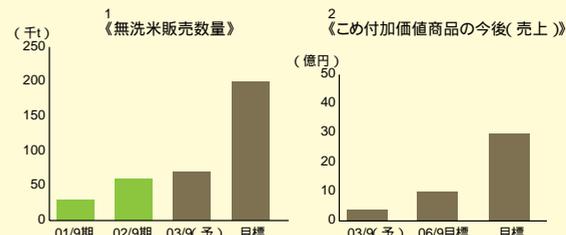
中期経営計画概要

基本方針

- 収益向上を目指します。
- 財務体質を改善し、強化します。
- グループ経営効率を高めます。
 - ・業務の効率化のために事務センターを設立し、事務コストを削減します。
 - ・グループ会社の管理業務を本社へ集約します。

米穀事業の取り組み

- 無洗米の一層の拡大を図ります。(1)
- 付加価値商品群 (低タンパク米・もみ芽玄米・パーフェクトライスなど) の拡大を図ります。(2)
- 価格変動リスクへの対応力を向上させます。
- 自社ブランドを育成します。



食品事業の取り組み

- 食品事業部を分社化して、食品事業部門を再編成、経営資源の効率化を図ります。
- 食品の第2工場を活用し、惣菜事業を拡大します。
- 米粉の用途を開発し、植物性乳酸菌発酵米粉「ライト」の取扱いを拡大します。

木徳神糧の旬な話題のココが知りたい!?

Q&A



環境保全にはどう取り組んでいますか？



産業公害が顕著になってきているなかで、木徳神糧も精米工場を運営する企業として、環境への影響に配慮することが重要と考え、桶川工場において国際規格である「ISO14001環境マネジメントシステム」を導入することとして準備をまいりました。審査に合格し、平成15年3月14日付で、財団法人日本規格協会のISO登録者リストに登録されました。① エネルギーの節約、② 廃棄物の削減とリサイクル、③ 無洗米の生産性向上、④ 水の節約、について具体的な目標^(注)を掲げ、環境保全活動に取り組んでおります。

(注) 2003年度の環境目標：電力1%削減、水の消費量2%削減、廃棄物15%削減、など7項目。



JIS Q 14001:1996
登録番号 JSAE629



『低タンパク米』はどんなお米ですか？



腎臓病患者のなかには、お米から摂取するたんぱく質の量をできるだけ少なくするという食事療法のために、普通にごはんを口にすることができない人がおります。このような方々のために開発された、たんぱく質の含有量をカットしたお米^(注)が「低タンパク米」です。このお米を使えば腎臓病の方の食卓にも、ごはんが並び、食生活が改善されます。木徳神糧が販売している「低タンパク米」は乳酸菌処理によって製造されており、食味が良いということが評価され、販売量は大幅に伸びております。

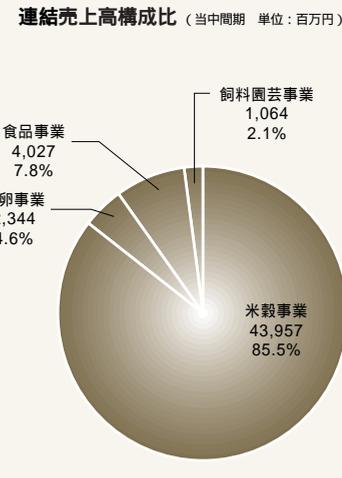
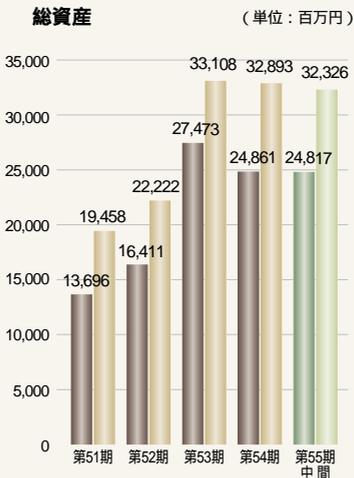
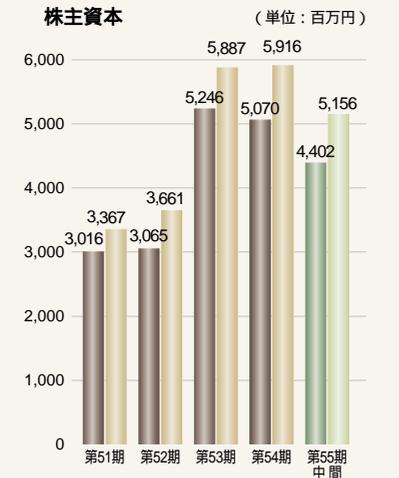
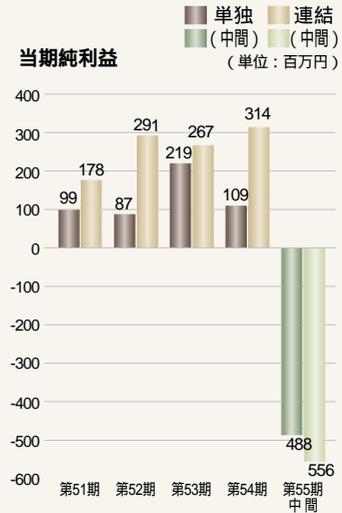
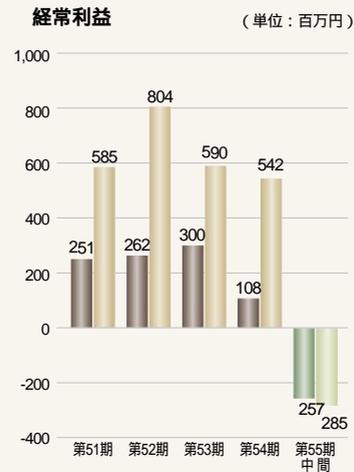
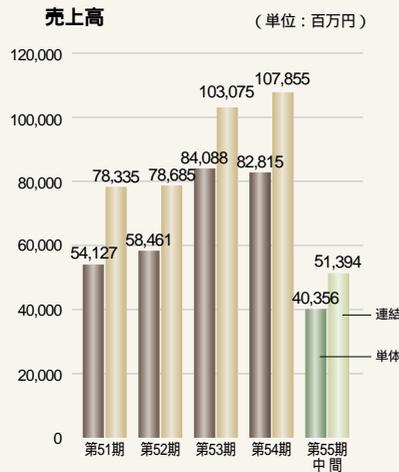
(注) 「低タンパク米」のたんぱく質の含有量は、普通のお米の約10%です。



「低タンパク米」(ごはんタイプ)

FINANCIAL HIGHLIGHT

財務ハイライト



平成12年10月1日(第53期期首)に、木徳株式会社は、神糧物産株式会社と合併し、木徳神糧株式会社となりました。

区	分	第51期	第52期	第53期	第54期	第55期中間	
売	上	高(百万円)	78,335	78,685	103,075	107,855	51,394
			54,127	58,461	84,088	82,815	40,356
経	常	利	585	804	590	542	285
		益(百万円)	251	262	300	108	257
当	期	純	178	291	267	314	556
		利	99	87	219	109	488
株	主	資	3,367	3,661	5,887	5,916	5,156
		本(百万円)	3,016	3,065	5,246	5,070	4,402
総	資	産	19,458	22,222	33,108	32,893	32,326
		(百万円)	13,696	16,411	27,473	24,861	24,817

事業の概況

① 米穀事業部門

米穀事業は、前連結会計年度に実施したテレビコマーシャル等の広告宣伝や積極的な販売促進等の効果により自社ブランド商品は堅調に推移いたしました。特に、無洗米は品揃えを増やしたことで商品構成が充実した一方、外食・中食向けの業務用が伸びました。こうした中、連結子会社の木徳九州株式会社では、新たに無洗米の精米ライン増設に着手しました。米の高付加価値商品として販売に注力しているタイ国産米の「香り米」、医療食用の「低タンパク米」、健康志向の「もみ発芽玄米」や「パーフェクトライス」も順調に市場を拡大しております。昨年3月に稼働した少量多品種専用工場「飛翔館」は、当中間連結会計期間1,100t強の生産を上げることができました。しかしながら、木徳滋賀株式会社のJAS法表示違反による影響で関西地区の精米販売が減少し利益を押し下げたほか、14年産新米の自主流通米落札価格が古米価格より安くなったことで古米の価格はさらに下落し、手持ちの古米在庫の処分をいたしました。このような状況により、米穀事業の当中間連結会計期間における売上高は43,957百万円(前年同期比9.2%増)でしたが、営業利益は378百万円(同53.4%減)となりました。

② 鶏卵事業部門

鶏卵価格相場は、新年を迎え近年にはない相場に下落いたしました。その結果、「食べる健康卵」などの特殊卵の販売促進を積極的に実施したことにより販売数量が増加し、当中間連結会計期間の売上高は2,344百万円(同3.0%増)と増加いたしました。また、運賃等の販管費の増加により営業利益は36百万円(同22.8%減)となりました。

③ 食品事業部門

食品事業の主力商品である鶏肉は、輸入鶏肉の国産偽装事件以降、国内生産が増加し、鶏肉の価格相場は低調で推移いたしました。このような環境の中、鶏肉の在庫を見切り販売せざるを得ない状況とともに、取扱数量につきましても減少しました。さらに、上新粉の販売低調、惣菜は新規大手顧客の獲得は実現できたものの、既存顧客への売上減少などが利益を圧迫することとなりました。なお、当中間連結会計期間より新たに組み込んだ米粉は製造および販売体制の準備を整え、下期より本格的に販売できる体制となりました。このような状況により、当中間連結会計期間における売上高は4,027百万円(同15.0%減)、営業利益は20百万円(同93.5%減)となりました。

④ 飼料園芸事業部門

飼料(園芸)事業のうち、園芸部門については、平成14年12月1日付でカネコ種苗株式会社に営業譲渡したことにより、売上高は2ヶ月分の計上となっております。また、飼料部門については、米糠の取り扱いやフスマの販売の増加により糟糠類が堅調に推移しました。その結果、当中間連結会計期間における売上高は1,064百万円(同25.0%減)、営業利益は46百万円(同2.3%減)となりました。

FINANCIAL DATA

連結貸借対照表

科 目	(単位：千円)		
	当中間期 (平成15年3月31日現在)	前中間期 (平成14年3月31日現在)	前期末 (平成14年9月30日現在)
資産の部			
流動資産	18,826,957	22,823,607	19,628,151
現金及び預金	2,474,101	5,089,030	4,348,144
受取手形及び売掛金	8,999,241	11,611,836	9,189,903
たな卸資産	4,894,744	3,883,310	3,980,711
未収入金	1,587,638	1,209,650	1,606,132
その他	981,312	1,153,798	638,592
貸倒引当金	110,081	124,019	135,334
固定資産	13,499,796	13,004,108	13,265,427
(有形固定資産)	(10,642,373)	(10,087,481)	(10,237,638)
建物及び構築物	3,831,422	3,837,751	3,686,573
機械装置及び運搬具	2,359,625	1,983,864	1,939,601
土地	4,024,169	4,146,421	4,127,822
建設仮勘定	321,450	459	367,562
その他	105,706	118,983	116,079
(無形固定資産)	(159,838)	(190,458)	(172,247)
(投資その他の資産)	(2,697,585)	(2,726,168)	(2,855,541)
投資有価証券	1,170,210	1,275,048	1,286,557
その他	1,699,225	1,597,136	1,650,473
貸倒引当金	171,851	146,015	81,489
資産合計	32,326,754	35,827,715	32,893,578

科 目	(単位：千円)		
	当中間期 (平成15年3月31日現在)	前中間期 (平成14年3月31日現在)	前期末 (平成14年9月30日現在)
負債の部			
流動負債	18,415,239	20,310,248	17,174,041
支払手形及び買掛金	3,106,598	4,958,110	3,158,233
短期借入金	10,376,512	10,582,045	9,229,218
一年内償還予定社債	500,000	-	-
一年内返済予定長期借入金	2,875,482	2,124,257	3,068,986
未払法人税等	67,464	313,880	126,536
賞与引当金	202,075	197,540	197,548
その他	1,287,106	2,134,414	1,393,517
固定負債	8,337,932	9,014,322	9,311,488
社債	800,000	500,000	1,000,000
長期借入金	7,144,481	7,778,386	7,720,118
退職給付引当金	26,263	41,009	28,249
役員退職給与引当金	172,476	169,238	175,596
連結調整勘定	48,510	56,510	55,245
その他	146,201	469,178	332,278
負債合計	26,753,172	29,324,571	26,485,529
少数株主持分			
少数株主持分	416,601	510,508	491,971
資本の部			
資本金	-	529,500	-
資本準備金	-	331,500	-
連結剰余金	-	4,899,123	-
その他有価証券評価差額金	-	244,848	-
為替換算調整勘定	-	7,677	-
自己株式	-	4,658	-
資本金	529,500	-	529,500
資本剰余金	331,500	-	331,500
利益剰余金	4,244,682	-	4,857,894
その他有価証券評価差額金	72,061	-	216,450
為替換算調整勘定	11,316	-	13,573
自己株式	9,446	-	5,693
資本合計	5,156,980	5,992,635	5,916,077
負債、少数株主持分及び資本合計	32,326,754	35,827,715	32,893,578

連結損益計算書

科 目	(単位：千円)		
	当中間期 (自平成14年10月1日 至平成15年3月31日)	前中間期 (自平成13年10月1日 至平成14年3月31日)	前期末 (自平成13年10月1日 至平成14年9月30日)
売上高	51,394,058	48,698,876	107,855,516
売上原価	47,801,057	44,402,822	99,382,676
売上総利益	3,593,001	4,296,054	8,472,839
販売費及び一般管理費	3,752,203	3,820,356	7,833,535
営業利益(又は営業損失)	159,202	475,697	639,304
営業外収益	100,025	209,208	334,771
受取利息	4,268	5,648	11,645
受取配当金	3,445	74,912	85,238
不動産賃貸収入	48,525	54,677	103,813
持分法による投資利益	1,612	1,215	-
連結調整勘定償却額	6,734	1,273	8,627
その他	35,439	71,480	125,447
営業外費用	226,752	196,588	431,488
支払利息	165,816	144,988	329,428
持分法による投資損失	-	-	279
不動産賃貸費用	37,020	37,764	75,435
社債発行費	7,050	-	12,750
その他	16,864	13,835	13,594
経常利益(又は経常損失)	285,929	488,318	542,587
特別利益	213,523	280,302	463,263
固定資産売却益	141,358	52,327	229,176
投資有価証券売却益	-	215,699	215,660
関係会社株式売却益	-	-	275
貸倒引当金戻入益	20,203	4,438	6,784
受取保険金	50,304	-	-
その他	1,657	7,837	11,365
特別損失	737,349	193,399	479,735
固定資産売却損	52,750	17,952	18,306
固定資産除却損	3,885	39,812	156,700
投資有価証券売却損	-	791	752
投資有価証券評価損	10,116	3,006	41,100
ゴルフ会員権評価損	6,300	-	-
貸倒引当金繰入額	104,591	-	51,217
退職金制度廃止に伴う精算費用	-	108,648	145,686
精米不正表示関連損失	496,534	-	-
その他	63,170	23,187	65,969
税金等調整前中間(当期)純利益(又は税金等調整前中間純損失)	809,756	575,221	526,115
法人税、住民税及び事業税	72,131	341,535	230,055
法人税等調整額	257,227	112,394	38,787
少数株主損益	67,981	21,970	20,024
中間(当期)純利益(又は中間純損失)	556,679	324,109	314,822

FINANCIAL DATA

連結剰余金計算書 / 連結キャッシュ・フロー計算書 / 重要な子会社等の状況

連結剰余金計算書		(単位：千円)		
科 目	当中間期	前中間期	前期末	
	(自 平成14年10月1日 至 平成15年3月31日)	(自 平成13年10月1日 至 平成14年3月31日)	(自 平成13年10月1日 至 平成14年9月30日)	
連結剰余金期首残高	-	4,664,601	-	
連結剰余金減少高	-	89,588	-	
配当金	-	85,213	-	
役員賞与	-	4,374	-	
中間純利益	-	324,109	-	
連結剰余金中間期末残高	-	4,899,123	-	
(資本剰余金の部)				
資本剰余金期首残高	331,500	-	331,500	
資本剰余金中間期末(期末)残高	331,500	-	331,500	
(利益剰余金の部)				
利益剰余金期首残高	4,857,894	-	4,664,601	
利益剰余金増加高	-	-	314,822	
当期純利益	-	-	314,822	
利益剰余金減少高	613,212	-	121,530	
配当金	31,930	-	117,155	
役員賞与	24,601	-	4,374	
中間純損失	556,679	-	-	
利益剰余金中間期末(期末)残高	4,244,682	-	4,857,894	

連結キャッシュ・フロー計算書		(単位：千円)		
キャッシュ・フロー	当中間期	前中間期	前期末	
	(自 平成14年10月1日 至 平成15年3月31日)	(自 平成13年10月1日 至 平成14年3月31日)	(自 平成13年10月1日 至 平成14年9月30日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,482,804	2,293,080	2,210,806	
投資活動によるキャッシュ・フロー	979,505	442,707	1,066,944	
財務活動によるキャッシュ・フロー	628,396	1,391,388	1,351,833	
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,812	9,692	2,139	
現金及び現金同等物の増減額(減少：)	1,835,726	468,677	205,831	
現金及び現金同等物の期首残高	4,262,692	4,536,703	4,536,703	
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	-	-	68,178	
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	2,426,966	5,005,381	4,262,692	

重要な子会社等の状況

会 社 名	資 本 金	当社の議決権比率	主 要 な 事 業 内 容
木徳九州株式会社	100,000千円	100%	米穀搗精販売業
キトクフーズ株式会社	94,950千円	100%	食品製造販売業
株式会社ライスピア	50,000千円	100%	米穀搗精加工販売業及び食品製造販売業
キトク・アメリカ社	200,000US\$	100%	米穀輸出販売業
内外食品株式会社	160,000千円	72%	畜産物加工販売業
アンジメックス・キトク社	716,000US\$	67%	米穀搗精販売業
備前食糧株式会社	98,000千円	46%	米穀搗精販売業

(注) 1. 備前食糧(株)は、実質的に支配しているため、重要な子会社に含めております。
 2. (株)あじときは、平成14年10月1日付でキトクフーズ(株)と合併しております。
 3. 木徳滋賀(株)は、平成15年5月末日で解散しております。

単独財務諸表

貸借対照表(要旨)		(単位：千円)		
科 目	第55期中間期	第54期中間期	第54期	
	(平成15年3月31日現在)	(平成14年3月31日現在)	(平成14年9月30日現在)	
流動資産	13,679,584	16,932,407	13,978,447	
固定資産	11,137,731	10,965,825	10,883,346	
(有形固定資産)	(7,793,830)	(7,388,306)	(7,412,350)	
(無形固定資産)	(89,310)	(118,783)	(103,447)	
(投資等)	(3,254,589)	(3,458,735)	(3,367,548)	
資産合計	24,817,315	27,898,233	24,861,793	
流動負債	14,027,876	15,105,476	11,972,987	
固定負債	6,386,679	7,623,004	7,817,998	
負債合計	20,414,556	22,728,480	19,790,985	
資本金	-	529,500	-	
法定準備金	-	445,646	-	
剰余金	-	3,954,975	-	
その他有価証券評価差額金	-	244,289	-	
自己株式	-	4,658	-	
資本金	529,500	-	529,500	
資本剰余金	331,500	-	331,500	
利益剰余金	3,478,762	-	3,999,559	
株式等評価差額金	72,443	-	215,942	
自己株式	9,446	-	5,693	
資本合計	4,402,759	5,169,752	5,070,808	
負債及び資本合計	24,817,315	27,898,233	24,861,793	

損益計算書(要旨)		(単位：千円)		
科 目	第55期中間期	第54期中間期	第54期	
	(自 平成14年10月1日 至 平成15年3月31日)	(自 平成13年10月1日 至 平成14年3月31日)	(自 平成13年10月1日 至 平成14年9月30日)	
経常損益の部				
営業損益の部				
営業収益	40,356,732	38,229,106	82,815,171	
営業費用	40,587,273	38,128,957	82,667,445	
営業利益(又は営業損失)	230,540	100,148	147,726	
営業外損益の部				
営業外収益	173,236	280,021	381,309	
営業外費用	200,267	202,215	420,160	
経常利益(又は経常損失)	257,571	177,953	108,875	
特別損益の部				
特別利益	164,962	257,901	440,902	
特別損失	669,922	242,307	399,670	
税引前中間(当期)利益(又は税引前中間損失)	762,532	193,547	150,106	
法人税、住民税及び事業税	1,175	153,018	1,555	
法人税等調整額	274,840	106,229	39,413	
中間(当期)利益(又は中間損失)	488,866	146,758	109,137	
前期繰越利益	83,612	69,476	69,476	
中間配当額		-	31,941	
中間(当期)未処分利益(又は中間未処理損失)	405,254	216,235	146,673	

株式の状況 (平成15年3月31日現在)

- (1) 会社が発行する株式の総数 30,000,000株
 (2) 発行済株式の総数 8,530,000株
 (3) 株主数 885名
 (4) 大株主

株主名	当社への出資状況		当社の大株主への出資状況	
	持株数	議決権比率	持株数	議決権比率
木村謙三	405千株	4.8%	-千株	-%
木村初子	351	4.1	-	-
木徳神糧従業員持株会	333	3.9	-	-
木村良	312	3.7	-	-
木村不動産株式会社	270	3.2	-	-
株式会社東京三菱銀行	240	2.8	-	-
稲垣辰彌	225	2.6	-	-
濱田精麥株式会社	218	2.5	-	-
水野正夫	206	2.4	-	-
木村徳兵衛	202	2.4	-	-

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
 2. 議決権比率は、小数点第2位を切り捨てて表示しております。

会社概要 (平成15年3月31日現在)

商号 木徳神糧株式会社
 事業内容 米穀事業、海外事業、食品事業、飼料事業
 本社所在地 〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番24号 天王洲セントラルタワー14階
 TEL 03-5479-7111(代表) FAX 03-5479-6999
 資本金 5億2,950万円
 従業員数 171名(男性139名、女性32名)

役員 (平成15年3月31日現在)

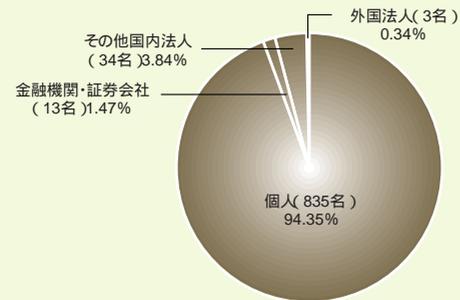
代表取締役社長	木村良	取締役	稲垣辰彌
常務取締役	釜谷弘	取締役	松山正吉
取締役	木村友二郎	取締役	平山惇
取締役	水野正夫	取締役	足立英夫
取締役	志村安彦	常勤監査役	土田秀三
取締役	山本幸雄	監査役	大川孝之
取締役	天川誠	監査役	中島淳

事業所一覧 (平成15年3月31日現在)

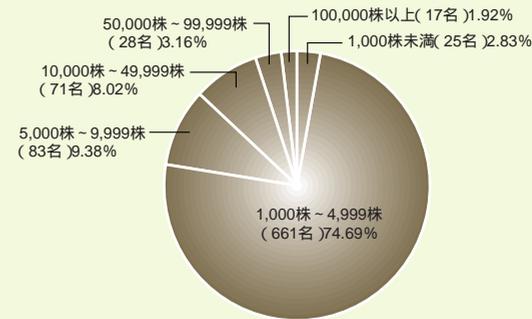
本店	東京都中央区銀座
本社	東京都品川区東品川
首都圏営業部	横浜市西区浅間町
飼料事業部	横浜市西区浅間町
桶川精米工場	埼玉県桶川市
本牧精米工場	横浜市中区かもめ町
鶏卵部	茨城県猿島郡猿島町



株式の所有者別分布状況



株式の所有数別分布状況



株主優待のお知らせ

毎年3月31日および9月30日現在における1,000株以上保有の株主および実質株主の皆さまに対し、当社の米穀製品を年2回贈呈いたします。
 3月31日現在の株主の皆さまには一律2,000円相当。
 9月30日現在の株主の皆さまには一律3,000円相当。

平成15年3月31日現在の株主の皆さまには、「米浪漫」(1.5kg入り)2袋と「パーフェクトライス」(150g×10入り)1袋を贈呈いたしました。
 米浪漫：当社独自の評価システムにより厳選した最上級米です。
 パーフェクトライス：当社の子会社である(株)ライスピア製の無洗米で、「ギャバ」など玄米の栄養成分を白米で摂取できます。



株 主 メ モ

決 算 期 毎年9月30日
定 時 株 主 総 会 毎年12月に開催いたします。
基 準 日 定時株主総会については9月30日、その他必要があるときはあらかじめ公告する一定の日
配当金受領株主確定日 9月30日および中間配当金の支払いを行うときは3月31日
名 義 書 換 代 理 人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱信託銀行株式会社
同 事 務 取 扱 場 所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱信託銀行株式会社 証券代行部
同 事 務 連 絡 先 〒171-8508東京都豊島区西池袋一丁目7番7号
(郵 便 物 送 付 先) 三菱信託銀行株式会社 証券代行部
(お 問 い 合 せ 先) TEL (03) 5391-1900 (代表)
同 取 次 所 三菱信託銀行株式会社 全国各支店
公 告 掲 載 新 聞 日本経済新聞

(届出諸事項についてのお知らせ)

住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取請求に必要な各用紙および株式の相続手続依頼書のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル0120-86-4490で24時間承っておりますので、ご利用ください。

貸借対照表および損益計算書掲載のホームページアドレス

<http://www.kitoku-shinryo.co.jp/koukoku.html>